

第十七号



尋常新體讀本

卷三

圖書 和圖書 遡



福岡教育大学蔵書

T1A3

10

Ki44j



明治廿七年十一月一日  
文部省檢定簿



尋常  
小學  
新體讀本

卷三



第一課

むかふのはりを  
ごらん なさい。  
たふハ、れんげさう  
のはながさいて  
をります。  
はたふハ、なのはな  
がさいてをります。



てふがはなのうへふたはぶれてをります。  
なんとよいけーきでいありませぬか。  
こちらのはりをごらん なさい。

へうたんをさげてゆくひとがあります。  
ぢうばこそもつてゆくひともあります。

あれいどこへゆくのでありますか。  
あれいはなみにゆくのでありませう。  
さくらなのはな れんげさう。



いまをさかりの のふさと  
手をひきつれて こゝかーこ  
はなみ つみくさ れもーろや

文題

一、たにいをなにつくりますか。  
二、はたふいをなをつくりますか。  
三、れんげき。

第二課

菜 畑

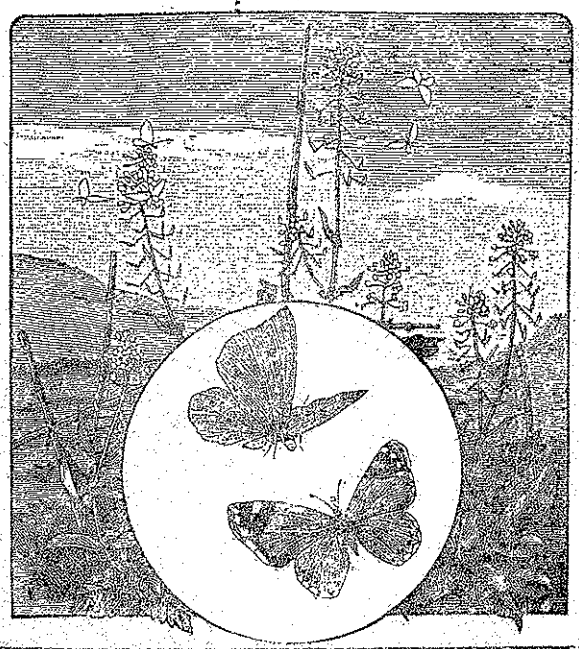
この畑に、いきいろなる花、一めんにさけり。  
これハ、菜の花なり。

虫 見

花の上ふとぶ虫を  
見よ。

長

この虫ハ、てふなり。  
てふハ、四まいのはね  
と、二本のひげとあり。  
したハ、長くーて、花の  
つゆをすふふ  
よろー。  
はねハ、白きもあり、き  
なるもあり、くろき





美もありていと美。

てふハすがた美くーて、はるのけーき  
に、よくかなへども、そのはぐめいと  
みふくきものなり。

てふハもと、いかなるすがたのものなりー  
や。ーうづてみよ。

てふくーとまれや 菜のはふとまれ  
とまる菜のはい こがねの花で

花がてふくか てふくが花か  
かぜふふかれて ひらりやひらり

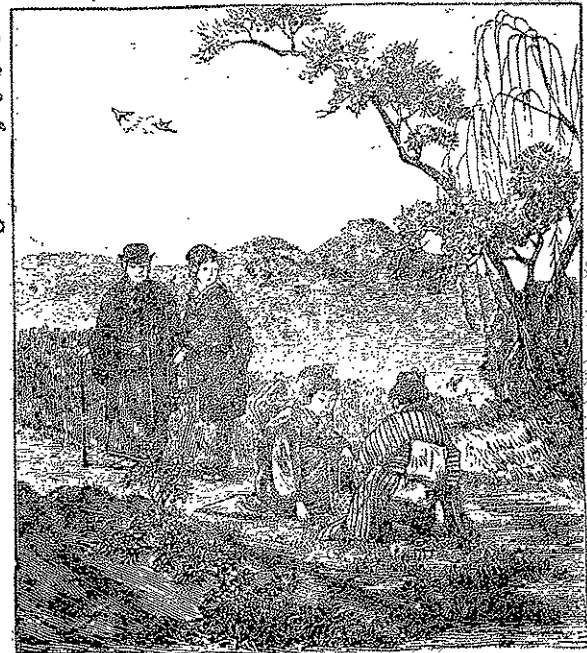
文題 一、菜の花。 二、へりたん。 三、ぢうほこ。

第三課

春 三月四月五月を春といふ。

草 春ハ、きこり、あな、かく、草も、木も、美ーき  
花をひらき、あたらーきめをふきて、のべ  
のけーきとよろー。





此のころハ人の心も  
れのづから うきたつ  
故ふのべふ出でて  
草をつみ、めいーよふ  
行きて、花を見るもの

たほー。

あたゝかなる春の日ふのべをあるぎ  
めいーよをたづねて、あそぶハ、まことふ

たのーきものなり。

文題 一いふ。 ニとんぼ。 三いふ。

第四課

サクラハ、春ノナカバゴロヨリ、花ヤウヤク  
開ク。 花ニヒトヘナルモアリ、  
ヤヘナルモアリ。  
ヒトヘハ早くサキ、ヤヘハオソク  
開ク。 イヅレモウスアカクシテ

甚 甚 美シ。

其 春ノ花ハ、サマヅクアレド、其ノ美シキハ、  
サクラニマサルモノナシ、タゞ花トイヘ  
思 バスグニサクラヲ思ヒ出スホドナリ。

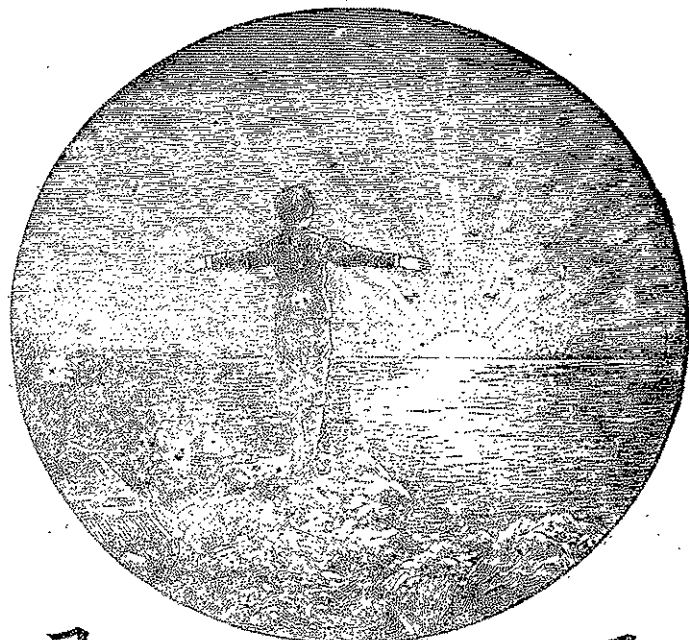
文題 一、モノ花。 二、春。 三、花見。

第五課

アサヒガノボリマシタ。  
タラウハ、ソトニ出デテ、アサヒヲナガメ

方 何 東

西



マスカ。

日ノ入ル方ハ西トイヒマス。

テヲリマス。

アサヒノ出ヅル方  
ヲ、何トイヒマスカ。  
アサヒノ出ヅル方ハ、  
東トイヒマス。

日ノ入ル方ヲ、何トイヒ



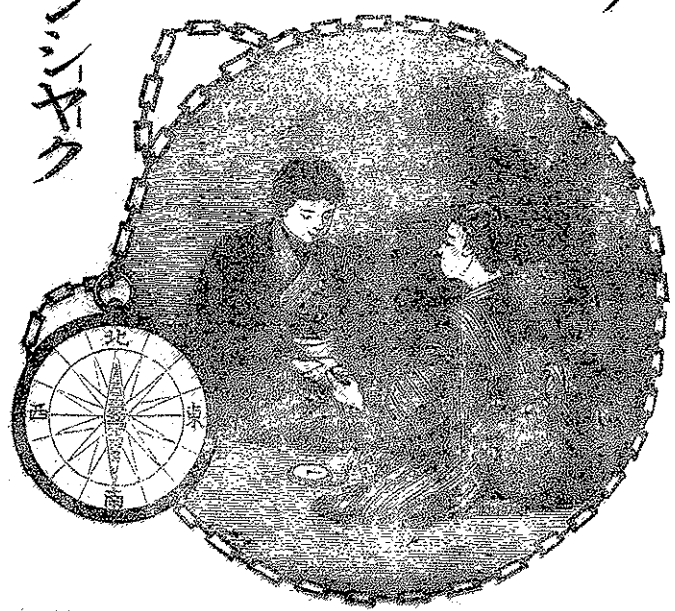
南  
タラウノ、右ノ手ニアタル方ヲ、何ト  
イヒマスカ。 右ノ方ハ、南トイヒマス。  
左ノ方ヲ、何トイヒマスカ。  
北  
左ノ方ハ、北トイヒマス。

文題 日ハ——ヨリ出デテ、——ニ入リマス。 東ニムカツテ  
ニ多クトキハ、右ハ——ニシテ、左ハ——デアリマス。  
東西南北ヲ——トイヒマス。  
ニサクラ。

第六課

フカキ 山ニ入り、ヒロキ ウミヲワタル

トキハ、キリタチアメフリ  
テ、日ノ見エヌコト、  
マ、アルベシ。  
カヤウナルトキハ、イカ  
ニシテ方角ヲ知ルカ。  
日ノ見エヌトキハ、ジンヤク  
トイヘルダウグヲ見テ、方角ヲ知ル。  
ジンヤクハ、時計ニニタルモノニテ、



針

向常

牛力

馬

又車荷用

其ノ中ニ、ジイウニウゴク一本ノ針アリ、  
此ノ針ハ、キメウナルカ子ニテ、其ノ先、  
常ニ北ノ方ニ向フ。故ニコレヲ  
見レバ、東西南北ハシゼンニ知ラル、ナリ。

文題

一、東西。二、南北。

第七課

牛ハ、大きなるけものふりて、かつよく  
よく人になれ、たがふ。

馬も大きなるけものに  
りて、かつよく、よく人

ふなれ、たがふ。

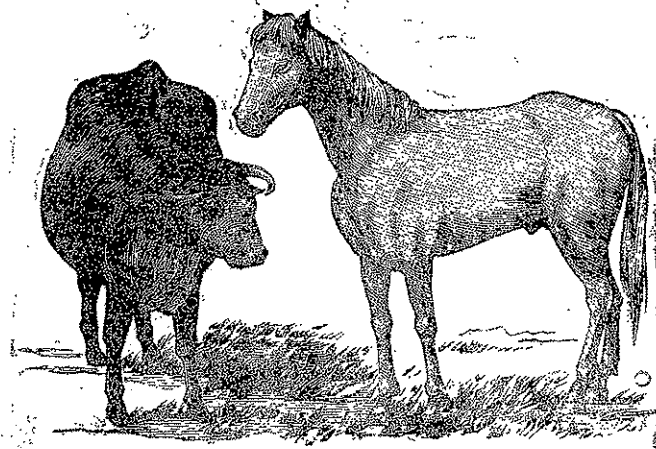
牛馬ハ、うまれつきすなほ

ふりて、よく人ふなれ

たがふものなれば、これ

を用ひて、荷をねはせ、車をひかゝめ、

又、田畑の土をほりたこさゝむ。





馬ハ、かけはゝること、すみやかなれ。ば、  
人れほくこれふのる。  
牛ハ、あゆむこと、れそければ、人これふ  
のることまれなり。

文題 一、ト、二、三、かんたんけい。

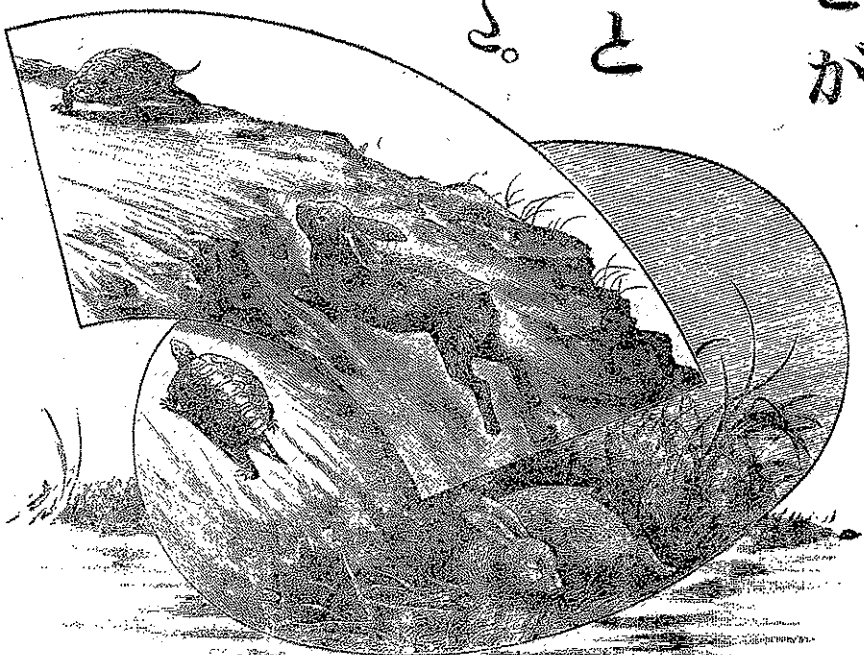
第八課

おも

うーのやうな、あゆみのおそいもので  
も、おこたらずめくとき、い、つひふとほい

あ  
ふ

ところふも、ゆくことが  
できます。  
むか、うさぎと、いのめと  
が、かけくらを、ま、ま、ま、  
うさぎ、い、あーのはなれ  
に、ほこつて、いのめの、  
あゆみのおそきを  
あなどり、とちうふ



て、ひとねぶりーまー。

やがて、めをさまーてみれ、バのめい、はや、  
やくさくーと、ころふ、めきつて、  
うせいのきこるをまつて、めとらふ  
はなーがあります。

それ、もゑ、なふごと、も、め、ごんをーて、い、  
なりませぬ。

とぶふいはやき らきん らん。

ねぶれバのめふ おひこされ  
のーこきこども、 おこされバ  
おくれーひとの あとふなる  
おこさる な

文題 一、牛。 二、馬。

第九課

荷物重坂引

コ、ニ、荷車ヲ引イテ、坂ヲノボルモノ  
アリ。 車ニハ、重キ荷物ヲノセタレ



バ引キ上グル コト、ヨウイナラズ。

少 此ノ人ハカツキ、アセナガルレドモ、少シ  
モ手ヲハナツコトナシ。

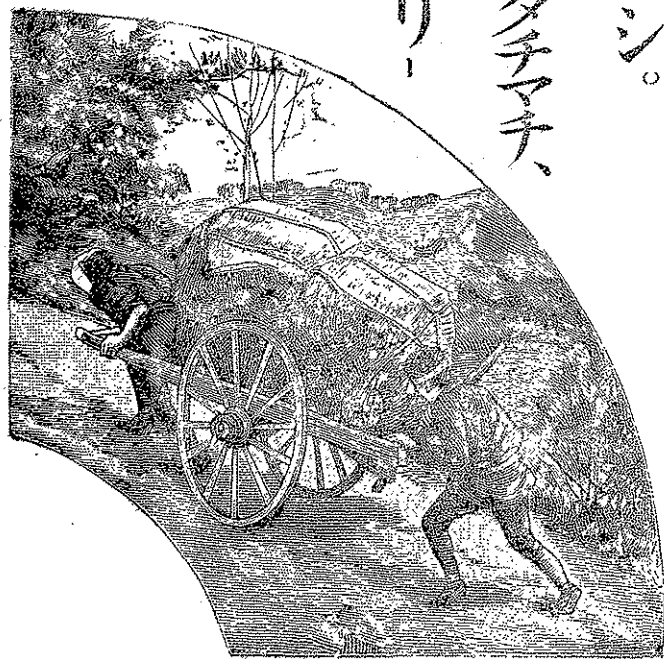
コレハモシ、ユダンセバ、タチマチ、

アトモドリシテ、ホチラリ、

ゾントナルコエナリ。

習 人ノヨミカキヲ習フ

モ、コレニニタリ。



サレバ、ムカシノ人モ、

手習ハ坂ノ車をおすごと、

わだんをするにあとつゝもどるぞ。

トイヘリ。

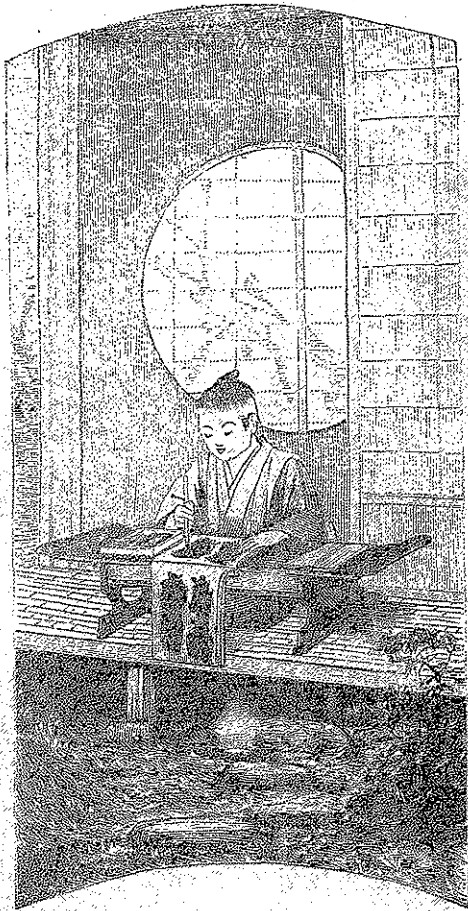
文題 一、ウサギ。 二、カメ。

第十課

ムカシ、アラ井ハクセキ新井白石トイフ人ガアリマシタ。

ハサイノトキ、手習ヲハジメマシタガ、

毎日 毎夜 文字



毎日 毎夜、  
オホクノ文字  
ヲ、習ハセラレ  
マシタ。

持机

日クレニナレバ、机ヲエンガハヘ持チ  
出シテ、ヤウヤク其ノ日ノクワゲラ  
ヲスマセタコトモアリマス。

冷水

又、夜ハ冷水ニテ、子ブケヲサマシ、ヤウ

ヤク、其ノ夜ノクワゲラヲ、スマセタ  
トイフコトデアリマス。

皂石ハ、カヤウニハゲンデ、文字ヲ習ヒ  
マシタ故、ホドナク、上手ニナツテ、父  
ニカハツテ、手がミヲカイタトイフ  
コトデアリマス。

文題

- 一、カシコキコトモ、ヨク、ヨミカキ、習フ。
- 二、坂、車、引き上げ、ヨウイ。
- 三、荷車、荷物、ハコブ、トキ、用フル、車。



第十一課

今は五月なり。

母ハ、むすめの、きものを、したてんとて、  
たんもののすんばふをはのれり。

あのたんものハ、おのちなり。

母の持てるものさ、ハ、くら尺とて  
こんもののすんばふを、はのるに用ふる  
ものなり。



机こゝのけなどのすんばふを、はのる  
ふ用ふるものさ、ハ、おね尺といふ。

おね尺とくら尺  
とい、其の長さ  
おなごのらす。  
されど、すんばふ  
のとなつこのハ、  
いづれもおなごく

して、おはることなり。

寸分

すべて、尺ハ、一尺をもとどり、これを十  
ふ分ちたるを、一寸といひ、一寸を十ふ  
分ちたるを、一分といふ。

丈合

汝等

又、一尺を十合はせたるを、一丈といふ。  
まへのゑの下ふゑのけるハ、おね尺の一寸  
なり。  
汝等、こゝろみふ此の尺ふて、  
まへのゑのよこしてを、はありて、見よ。

文題 一机 二 新井白石。

第十二課

竹

これハ竹なり。 此の竹ハ、大いふのび  
なり。 長さ、六尺五寸ほどあるべし。

皮

此の竹の下、の皮ハ  
おちなり。

竹ハ、いくまいとなく、  
皮を、あぶれども、



成長次第

竹色

作

成長するふーたのひて、次第ふ皮をぬぐ。  
竹ハ、まろくーて長く、其のはハ、常ふ  
みどりにーて、色をうつす。  
みき、いらつろふーてふーあり、あそく  
ーて、たやすくをれず。  
人これをを用ひて、さまざまのぶぐを作る。  
竹ふて作りたるものに、尺さるかご  
す、これひーやくふてたてなどあり。

文題

一尺。二尺。

第十三課

谷

高低

泉流

山ト山トノアヒダヲ谷トイフ。  
山ハ高く、谷ハ低シ。  
谷ヨリキヨキ水ノワキイヅルアリ。コレ  
ヲ泉トイフ。  
泉ハ、少シノ水、チヨロくト流レユキ、  
アヒアツマリテ、小川トナル。



小川モ、次第ニ流レ

ユキ、アヒアツマリテ

大河トナリ、ツヒ

海 奇  
ニ海ニ入ル。

海ハヒロクシテ

フカシ。

汝等ハ雨フリツビ

キテ、大河ノアフレ



タルヲキ、シコトアラシ。

サレド、ナガアメノタメニ、海ノ水ノ

マシタルヲキ、シコトハナカルベシ。

海ノヒロクシテ、大イナルハ、コレヲ

見テモ知ルベシ。

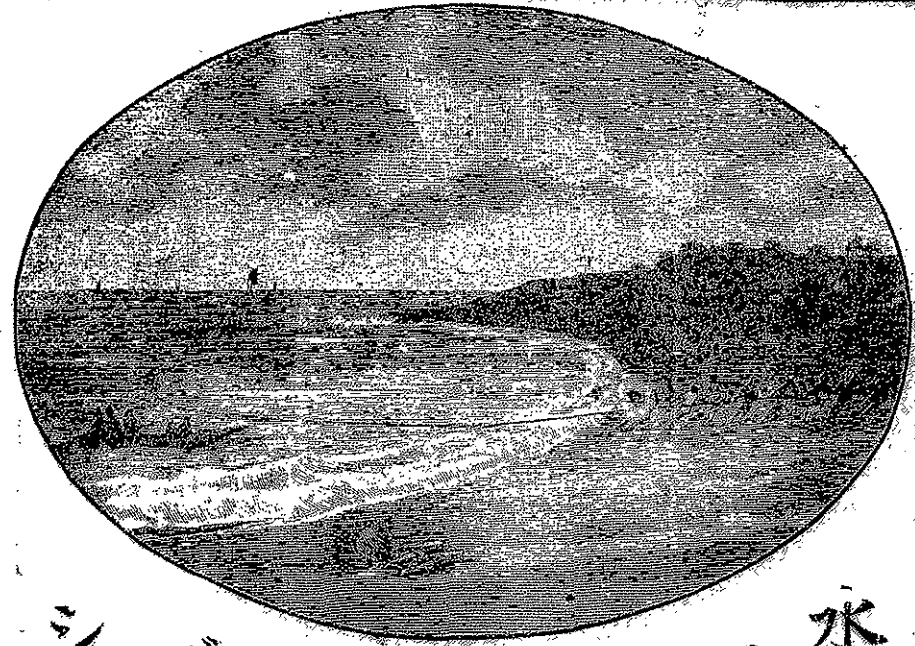
文題 一、竹。ニ、フデタテ。

第十四課

海ノケシキヲ見ヨ。

沖

舟



水ハ、ヒログトシテ、  
アヲソラニツラナレリ。  
沖ノ方ニホカケブ子  
アリ。  
舟ハ、ヒラクトシテ、  
木ノハノウカベルガ  
ゴトク、其ノホハ、白ク  
シテ、サギノゴトシ。

魚

男女

カナタヨリコギクル舟アリ。  
アレハ、レフシガ魚ヲトリテ、カヘリ  
キタルトコロナリ。  
ハマベニハ、アミヲヒケルレフシアリ。  
アマタノ男女、コエヲカケ、足ヲソロヘ  
テ、アミヲヒケリ。  
此ノアミハ、何トイフアミナリヤ。  
コレハ、デビキアミトテ、海ノ中ノ魚ヲ、

小學奇賞言之二

一、海ニハ——スメリ。——ニモ——スメリ。  
——ト——トニハ魚スメリ。

二、泉。三、川。

三泉  
三川。

明 志 阿

あるところふあるところとの  
二ひきのひぬがぬました。  
あるひぬハおとなしくして、くろひぬ  
ハあばれものであります。

[illegible]





善き友に、いむのまゝく交るべし。 惡き友は、あつてむづからず。

もし、あやまちて、惡き友に交れば、思はざるわざはひをまねくことあり。

賢されば、賢き人、あつてく、交りをむすぶことなり。

文題 一犬。 ニよきとも。

第十七課

夏 六月 七月 八月 ヲ 夏 ト イフ。

晝 夏 ハ、アツク シテ、晝 ナガク 夜 コジカシ。

初 六月 ハ 夏 ノ 初メ ナレバ、キコウ

サマデ アツカラザレドモ、雨 フリツ、キテ コ、チ サハヤカ ナラヌ日 オホシ。

田舎 苗 皆

田々ニテハ此ノ頃稲ノ苗ヲ田ニ  
ウエツク。コレヲ田ウエトイフ。

見ヨ。今ハ田ウエ

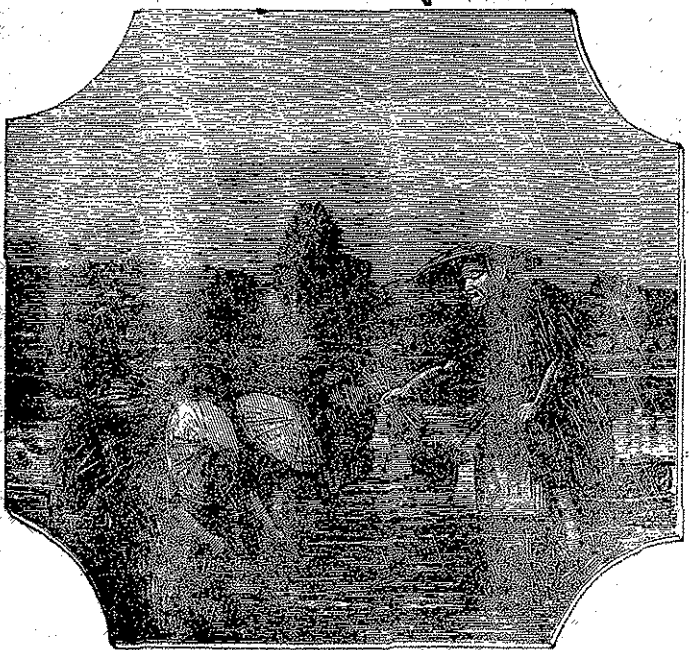
ノサカリナリ。カナタ

コナタニキコユルハ

田ウエウタナリ。

田ウエハノウゲフノ

中ワケテタイセツノ



皆

ワザナレバ雨ニヌレ土ニマミルヲモ  
イトハズ皆田ノ中ニ入りテ苗ヲサスナリ

文題 一、ヨキ友。二、賢キ人。

第十八課

暑 風 動

七月八月ハキコウワケテ暑シ。

晝ハ風ナクシテ木ノハスラ動カズ

ヒナタミヅハユノゴトクニナリ、セミ

ハサワガシクナキテヒトシホ暑サヲ



朝

際



マス  
カト  
思  
ハル。

サレト朝早くオキ

予見ヨ

風涼シテコナ

サハヤカニ朝ガホノ

花ソユヲオビテイト

美

朝ガホニハサマ

美シキ花アリ。

人々コレヲメデニテ

或

或ハカキ子ニウエ、或ハハチニウ、

文題 一、夏。 二、田上。

第十九課

雲黑

夏の暑き日ふハ、黒き雲、のなつふあらは  
る、かと思ふまふ、たちまち、こなつふ  
はびこりて、大つぶの雨をふらすこと  
あり。此の雨を夕立といふ。

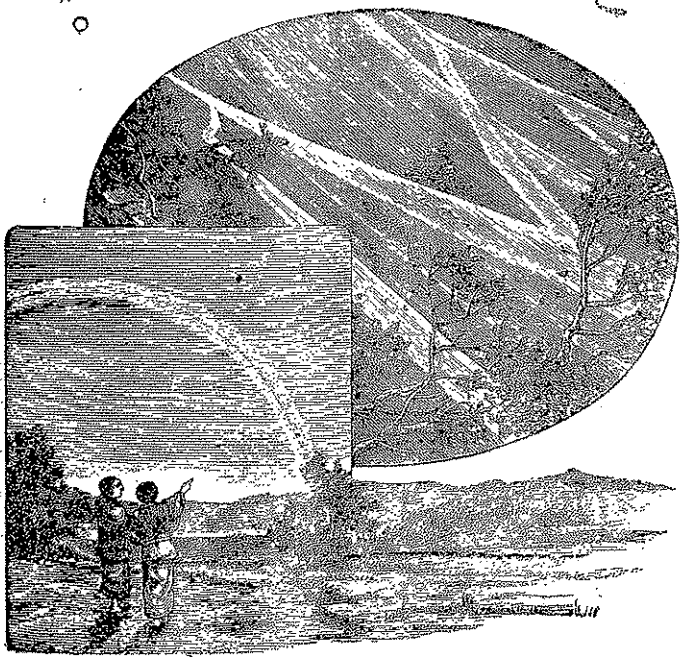
夕立のふるときハ、あみなり、やねの上  
ふなりあなり、あなびかり、戸のすきまより

さーこみて、いとすごき  
ことあり。

雨 やみ、あみなり

弓 をさまれ バ、弓なり

空 の美ーきもの、空に  
あらはる、ことあり。



これをにドといふ。  
にドハ、常ふ日と向ひあひて、あらはる、  
ものふて、日東ふあれバ、必西にあらはれ、  
日西にあれバ、必東ふあらはる。

文題 一、夏の日中。 二、朝のほ。

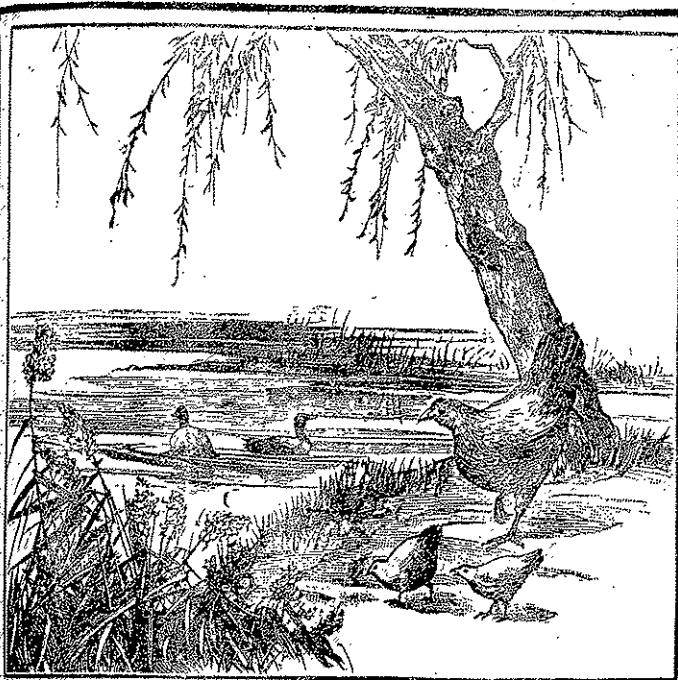
第二十課

此のゑをごろんなさい。  
あひるが、池の中ふ泳いで居ります。

居泳池

羽

一羽のめんどりが、二羽のひよこを  
ひきつれて、池のふちふまゐた。



あのめんどりハ、  
ひよこのおやで  
あります。  
おやどりハ、たいそう  
ひよこのみのうへ  
を、さづつてゐます。

親

もしひよこが、池の中に入らうとすれば、  
こつことないて、これをとめます。  
親の子を思ふには、とうでさへも、此の  
とほりであります。

危

されバ、皆さん、よく親の心を思ひやつて、  
常に危いところふ、ちのよらぬやうふ  
せねバ、なりませぬ。

文題

一せふ。二にや。



第二十一課

孝

母ノウシロニ居ルハオ孝

ニシテ父ノカタハラニ

忠

居ルハ忠三ナリ。

オ孝ハ毎バン母ノ

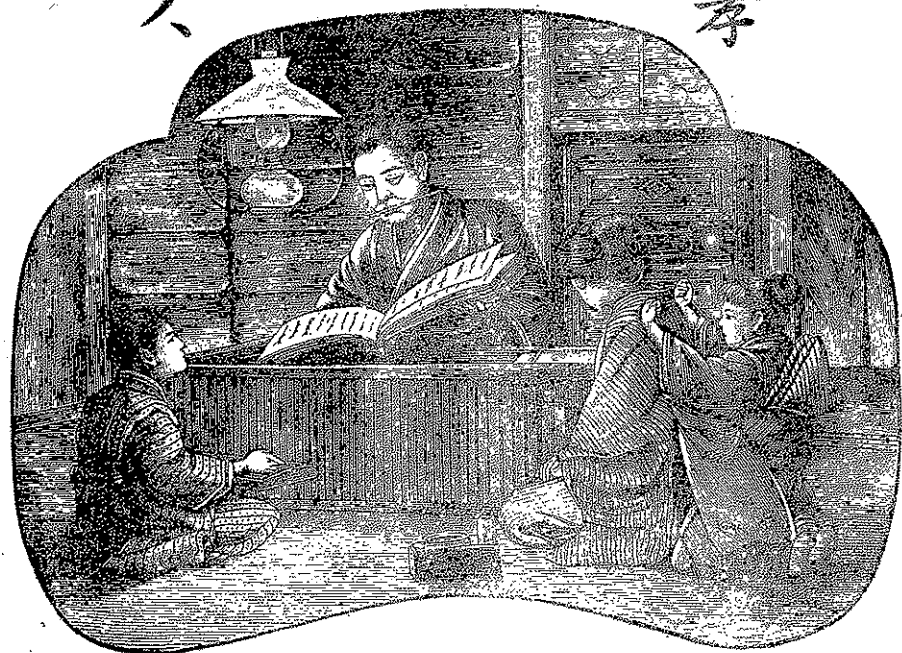
肩

肩ヲタ、ケリ。

コレハ、母ノカラダヲ、

休

休メントテナラン。



爲<sup>ガタ</sup>

忠三ハ、毎バン父ノカタハラニ出デテ、  
ウリアゲノカンチヤウヲ爲セリ。

コレハ、父ノテダスケヲ爲サントテナラン。

怠

親ノ肩ヲタ、キ、親ノテダスケヲ爲ス  
ハ、孝行ノ初メナレバ、怠ラズツトムルヲ  
ヨシトス。

文題 一、アヒル。ニ、メンドリ。

第二十二課

材木

此ノイヘノソトニハ、アマタノ竹ト材木

トアリ。コレハ材木屋ナリ。

丸太 角物

材木ニハ、丸太ト角物トアリ。

枝

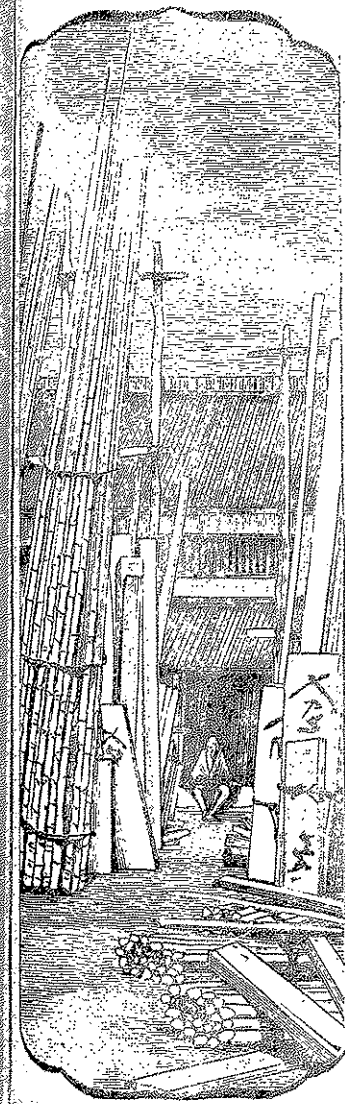
丸太ニハ、木ノ枝ヲキリハラヒタル

マ、ノモノアリ。又皮ヲムキタルモノ

アリ。

角物ニハ、

四寸角五



寸角ナドサマぐアリ。

板

材木ヲウスクヒキワリタルモノヲ板ト

杉 松

イフ。板ニハ、松板杉板ナドアリ。

家ヲタツルニ用フル材木ハ、松杉ヒノキ

ナリ。

柱

柱トドダイニハ、杉又ハヒノキヲ用ヒ、

ハリニハ、松ヲ用フ。

天

ユカハ、オホク松板ニテ、ハリ、天、ジヤウハ

材木ニハ、丸太ト角物トアリ。コレハ材木屋ナリ。材木ニハ、丸太ト角物トアリ。丸太ニハ、木ノ枝ヲキリハラヒタルマ、ノモノアリ。又皮ヲムキタルモノアリ。角物ニハ、四寸角五寸角ナドサマぐアリ。材木ヲウスクヒキワリタルモノヲ板トイフ。板ニハ、松板杉板ナドアリ。家ヲタツルニ用フル材木ハ、松杉ヒノキナリ。柱トドダイニハ、杉又ハヒノキヲ用ヒ、ハリニハ、松ヲ用フ。ユカハ、オホク松板ニテ、ハリ、天、ジヤウハ

オホク杉板ニテハル。

文題 一、松。 二、杉。

第二十三課

住家  
人の住む爲ふこゝらふるものを家といひます。

屋根  
家ハ木をくみ、屋根をふき、ゑづをぬりてこゝらへます。

家のうちふハぬまごきだいどころとま

などをとり、だいどころふハ板をはりぬまごきふハこゝみをあきます。

建方  
家ふハ、さまぐの建方があります。

平屋  
平屋建もあれば、二階建もあります。

二階  
又土ごうづくりもあれば、れんぐわづくりもあります。

瓦  
屋根のふき方ふも、草ぶき板ぶき瓦ぶきなどのふき方があります。

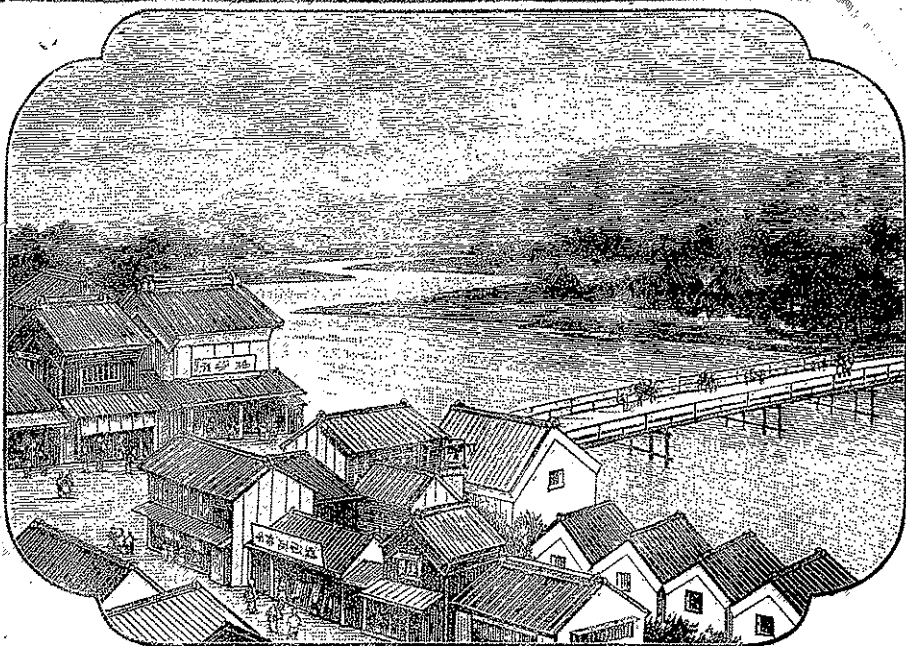
文題 一家。ニ大エトサクワン。

第二十四課

橋多村町

橋のむのふにハ草ぶきの家あり橋の  
こなこふハ瓦ぶきの家多し。  
橋のむかふハ杉田村ふりて橋のこな  
ハ小松町なり。  
杉田村ハぢめんよろゝくゝてこくもつ  
よくみのる。

百姓店



小松町は商ひはん  
トやうゝてふぎやの  
なり。  
百姓ハ村ふ住こて  
こくもつやさいなど  
を作り商人ハ町ふ  
店を出ゝてさまぐ  
の物をうる。



杉田村の百姓ハ小松町ふ行きて物を  
うり、又物をかふ。

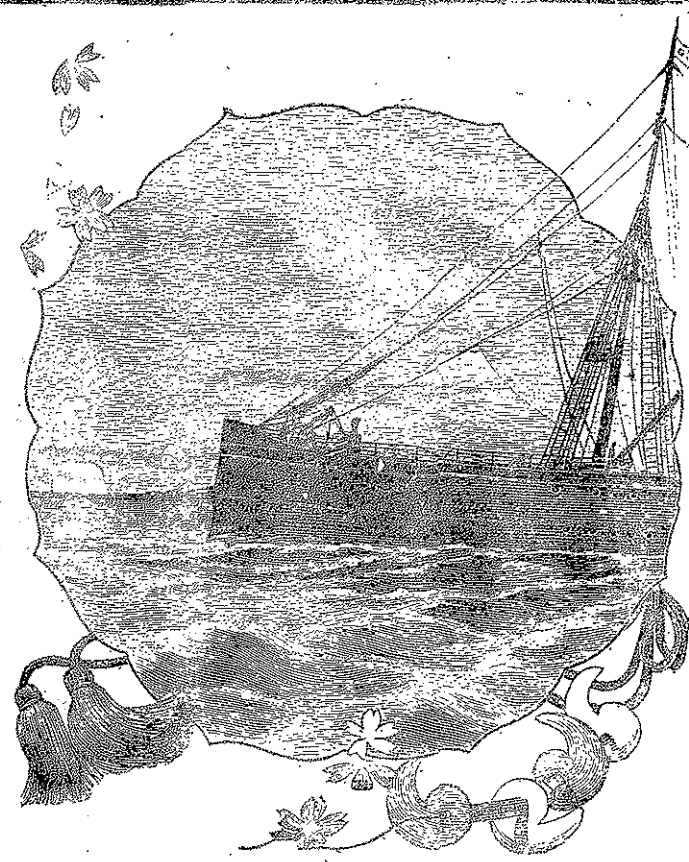
小松町の商人ハ居ながら物をうり、又  
四方よりあひれを爲す。

文題 一家のたぐひ。 二、屋根のあき方。

第二十五課

我等ノ住メルニツポンニハ杉田村ノ  
ゴトキ、村々頗多ク、小松町ノゴトキ、

極



町々極メテ  
多シ。

ニツポンニ住  
メルモノハ  
ニツポンノ  
コトヲ知ラ

デハカナフマジ。

ニツポントハ日本トカク。 日ノ出ヅル



エガマヘヲシテヲリマス。

ケシハ、キラ／＼トシテ、イナヅマノヤウ  
ニカバヤイテヲリマス。

ナシト、イサマシイデハアリマセヌカ。  
ニツポンニハ、ムカシヨリツヨイヒトガ  
オホクアリマシタ。

マタ オヤ ニ カウ ヲ ツクシ、キミ ニ  
チウギ ヲ ツクシ タ ヒト モ、タクサン



